

2021 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

| | |
|---------------|---|
| 報告書提出年月日 | 2022年 3月 20日 |
| 研究・研修課題名 | ディベロップメンタルケアに関する研修会の開催 |
| 研究・研修組織名(所属) | 周産期医療チーム(リハビリテーション部) |
| 研究・研修責任者名(所属) | 今岡 圭(リハビリテーション部) |
| 研究・研修実施者名(所属) | 黒崎 育美、道端 ゆう子、間壁 史良、伊藤 路子 福谷 早耶香、今岡 圭(リハビリテーション部) 竹田 美也子(看護部 NICU) |

| | |
|-----------------|---|
| 成果区分 | <input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(研修会の開催) |
| 該当者名(所属) | 参加者については以下③成果内の参加者参照 |
| 学会名(会期・場所)、認定名等 | 令和 3年 11月 21日(日) 9時 00分~12時 00分 ZOOM によるオンライン開催 |
| 演題名・認証交付元等 | ディベロップメンタルケア |
| 取得日・認定期間等 | 2021年 11月 21日実施 |
| 診療報酬加算の有・無 | <input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無 |

目的及び方法、成果の内容**①目的**

総合周産期母子医療センターが島根県立中央病院から本院へ変更されたことに伴い、ICU や NICU での周産期管理が重要となってきた。特に出産後の新生児に対する環境設定やポジショニング、発達支援について、医師・看護師・リハビリなど医療スタッフ間での知識の共有が必要である。しかしながら近隣では小児に関する研修会は少なく、技術・知識の研鑽が難しい状況にある。周産期医療チームを中心に院内での研修会を開催することで、より多くのスタッフに参加してもらい、知識の共有化や底上げをしていくことを目的とする。

②方法

東京都立大学健康福祉学部 助教である儀間 裕貴氏(理学療法士)を講師として招き、院内での研修会をオンラインで開催する。

同氏は小児理学療法学、新生児理学療法学を専門としており、ディベロップメンタルケアなど小児に関する著書も多数あり、講師の経験も豊富である。

対象は、当院だけではなく、退院先との情報共有の意味を含め、島根県内の周産期母子医療センターを有する病院へも参加を募った。

③成果**・参加者**

島根大学医学部附属病院より 33 名、松江赤十字病院より 4 名、益田赤十字病院より 2 名、島根県立中央病院より 1 名の参加があり、参加職種は医師、看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士と多職種に渡っていた。

・研修会について

研修会では儀間 裕貴氏より、胎児期からはじまる感覚運動経験と身体表象機能の発達、早産及び低出生体重児の発達特性、ディベロップメンタルケアの考え方と実際、早産及び低出生体重児のフォローアップについて最新の研究結果なども踏まえて講義をいただいた。また、姫路赤十字病院、日本

(様式 1)

NIDCAP 研修センターの藤本智久氏より NIDCAP 研修センターについて紹介していただいた。

・ **今後の展望**

小児の発達には新生児時の関わりが大切であるとされており、今回院内・院外の周産期医療に携わる多職種での研修会を行うことができ、今後スムーズに情報共有し、より良い環境の提供、リハビリを行うことに寄与することが期待される。

・ **添付資料**

別紙に参加者のアンケート結果、実施状況として講師・スタッフの写真、パンフレット、参加者リストを添付する。